

# 「大学生を対象とした農林漁業体験活動を伴う意見交換会」開催概要 ～伝えよう魚食文化、海の恵みを食卓に～

- 1 日 時 : 平成26年3月15日(土)10:00～14:30
- 2 場 所 : 唐戸市場(下関市唐戸町)
- 3 参加者 : 大学生19名
- 4 主 催 : 中国四国農政局山口地域センター、唐戸魚食塾
- 5 概 要

## (1)開 講

挨 拶 中国四国農政局消費・安全部長 河口 正紀

唐戸魚食塾について 唐戸魚食塾企画員 木村 秀喜 氏(下関短期大学教授)

- ・ 唐戸魚食塾は、市場、流通・加工業者、山口県、下関市、水産大学校、下関短期大学等の産・官・学に所属するボランティアで運営している。
- ・ 唐戸市場を拠点に、魚食に関する様々な講義と料理教室を組み合わせた活動を行っている。設立から丸8年が経過し、延べ受講者数は2,000人を超えている。
- ・ 下関市民を対象にした各種教室のほか、幼稚園から中学校の教職員を対象にした教室や小中学校での「出張魚食塾」など、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に、魚食と日本型食生活の普及に知恵を絞っている。



中国四国農政局 河口部長挨拶



唐戸魚食塾について  
唐戸魚食塾企画員 木村秀喜氏(下関短期大学教授)

## (2)講 義

「魚が食卓に届くまで」 唐戸魚食塾企画員 鷺尾 圭司 氏(水産大学校理事長)



## (3)唐戸市場見学 案内:下関市市場流通課 沖中真志氏

唐戸市場の特徴

- ・ 市場なのに一般人の「入場制限」が無い
- ・ 近くにふぐを専門とする南風泊市場、市内でもっとも取扱量が多い下関漁港市場がある。
- ・ 3つの魚市場が近距離圏内に存在するのは世界的に見てもここしかないと思われる。



唐戸市場の屋上



水産物コーナー



仲卸加工場



セリ場

#### (4) 魚を使った日本型食生活メニューの昼食作り(別紙「レシピ」参照)、会食



三枚おろしを分かりやすく実演

**献立：いわしのかば焼、胡瓜酢味噌かけ、  
若竹吸、ごはん**

- ・ 交差汚染を防止するため、魚以外の食材の調理を先に済ます。
- ・ いわしの三枚おろしを体験

調理指導：唐戸魚食塾企画員 今井龍弘氏  
(有限会社アミタ常務)



指示に従って一斉に調理



片身が外れました



できました！



美しい盛り付けも習いました

## (5)意見交換会「魚食文化を次世代に伝えるために」

参加者各自に今回の体験を通じて「気づいたこと、感じたこと」や「もっと知りたいと思ったこと」、また自分が「未来に伝えたいと思う食文化」と「伝えるために今後取り組むこと」をシートに記入してもらった後、その内容を基にグループ討議を実施。グループとして「未来に伝えたいと思う食文化」と「伝えるために今後取り組むこと」を取りまとめ、『私達の宣言！』として発表後、全体で意見交換を行った。

### ■ 各グループの『私達の宣言！』

#### (第1グループ)

「私達は、和食のおいしさを未来に伝えます。」

伝えるために今後取り組みたいことは、将来、栄養士として働く病院で患者様に食べてもらうことで和食のおいしさを伝えることです。

#### (第2グループ)

「私達は、四季の和食を未来に伝えます。」

伝えるために今後取り組みたいことは、それぞれの食品の旬を知ってもらい、それらの食品の調理法を知ってもらうことです。

#### (第3グループ)

「私達は、和食、地産地消の大切さを未来に伝えます。」

伝えるために今後取り組みたいことは、地産物をPRしていくことと講座を開くことです。

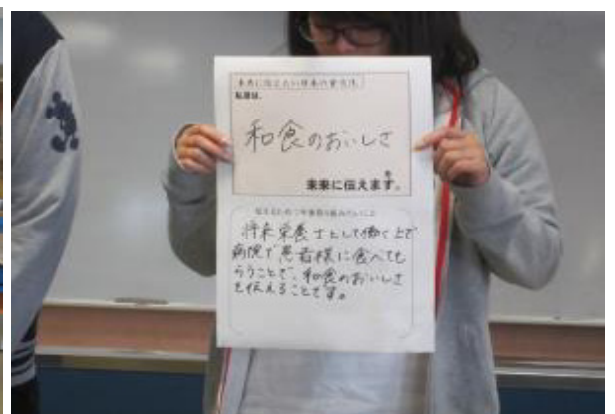
#### (第4グループ)

「私達は、魚を使った家庭料理を未来に伝えます。」

伝えるために今後取り組みたいことは、積極的に魚を使った料理を作り、友人に話したり、FacebookやLINE等のSNSを利用し、興味を持ってもらうようにします。



グループ討議



代表者の発表！

## ■ 全体での意見交換で出された意見

- ・ 今の若い世代に日本の食文化が伝わっていないのは、その上の世代、つまり我々の世代がしっかりやっていないということだと思う。我々大人世代がまずきちんと食生活を見直し、伝える努力をしないと食文化は守られていかない。
- ・ 各グループからの発表を聞いて頼もしく思った。発表したことを実践してもらえれば、日本の食文化は守られていくと感じた。
- ・ 今日、実際に自分で魚をさばいて料理を作って食べてみて、単純においしいだとか、単純に感動したという言葉以上にもっとたくさん伝えたいと感じたことがあると思う。その感じたものを忘れないうちに、とにかく身近な友人などに話のネタとして話していただきたい。それが、PRの一番の基礎の部分である。皆さんが今日感じたことを皆さんだけのものとして、いずれ忘れていくのではなく、誰かとの話のネタとして何らかの形でとどめておくことは非常に大事なことである。SNSをやっているのであれば、Facebookやツイッターに書き込んでほしい。そこからすべてが始まる。ちょっと面倒くさがってやらなければ何も変わらないということになってしまう。魚がおいしい下関にいることを大切にしてほしい。是非、今日感じたことを忘れないうちに何らかの形にしてほしいと願っている。